

モジャコ漁場調査

湯浅明彦・天真正勝・三好 亮徳・須原 修・
悦田 明・渋江 文・藤岡保史・原田 純

ブリ稚魚（通称モジャコ）を養殖の種苗として採捕するモジャコ漁が5月1日に解禁した。解禁に先立ち、流れ藻の下に集まるモジャコの来遊状況と漁場環境の調査を、資源評価調査事業の一環として実施した。その後、解禁後不漁が続き漁期が5月30日まで延長されたことから、第2回の調査を実施した。

調査方法

漁業調査船「とくしま」で二つの調査コース（SとSE）を航走して表層水温を観測し、流れ藻を目視で探索した。流れ藻の分布状況を記録し、比較的大きな流れ藻を網口9.5mのまき網を用いて採取した。採取した流れ藻は船上で重量を測定した後、付着しているモジャコ等の稚魚を分別した。採捕した稚魚は水産研究課美波庁舎で魚種を査定して個体数を計数し、モジャコは尾叉長と体重を測定した。

調査結果

4月19日にはSコース53マイルを航走し、4箇所流れ藻を採集した。5月24日にはSEコース51マイルを航走し、2箇所流れ藻を採集した（図1）。紀伊水道から内海系水の波及が見られた4月19日の表層水温は16～18℃で推移した。流れ藻は距岸4マイル付近の潮目に分布し、9マイル以遠ではほとんど見られなかった（表1）。採集した6個の流れ藻から尾叉長範囲15～141mm、平均51.6mmのモジャコ53尾を採捕した。黒潮系水の波及が見られた5月24日の表層水温は20～23℃で推移した。流れ藻は距岸18マイル以内では見られず、19～20マイルで小型の流れ藻2個を採集した。採捕した74尾のモジャコの尾叉長範囲は30～76mm、平均46.0mmであった。採捕したモジャコの尾叉長は、4月19日のモードが15～30mm、33mm以下の小型魚が全体の58%を

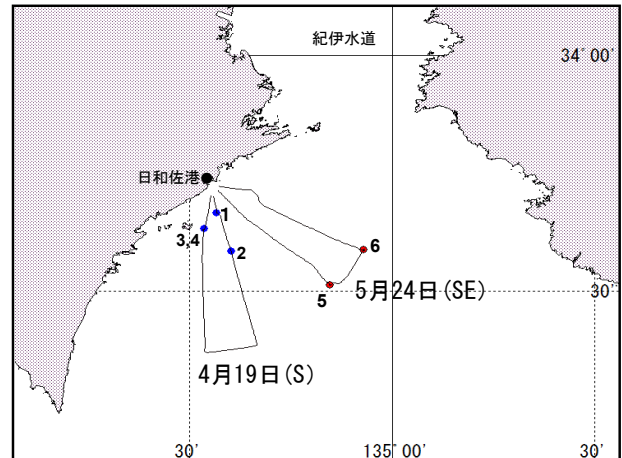


図1. モジャコ調査の航跡と流れ藻の採集地点、添え数字は表1の採集地点番号を示す

占めた。5月24日のモードは30～45mmで、40～55mmの範囲に全体の62%が含まれた（図2）。

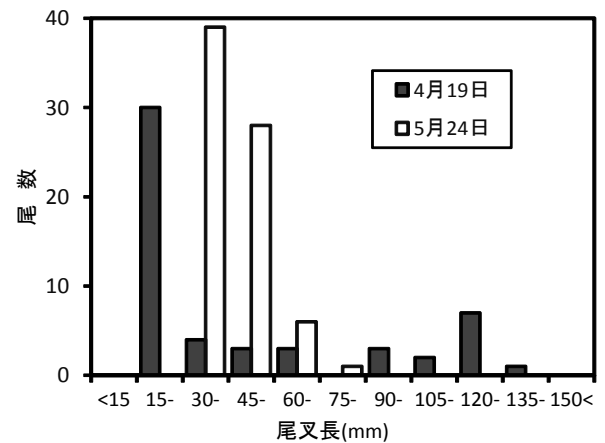


図2. 採捕したモジャコの尾叉長組成、各階級に二つのデータを並べて表示した

表1. 流れ藻の採集地点とモジャコの採捕状況

採集日	採集地点	採集位置		表層水温 (℃)	採集した流れ藻		モジャコ 採捕数	モジャコ尾叉長(mm)	
		北緯	東経		直径(m)	湿重量(kg)		最小～最大	平均
4月19日	1	33° 39.9'	134° 34.1'	17.2	0.8	4.1	19	19～72	27.9
	2	33° 35.1'	134° 36.2'	18.8	0.5	1.5	19	21～141	95.0
	3	33° 37.9'	134° 32.2'	18.2	0.8	11.0*	9	16～68	31.1
	4	33° 37.9'	134° 32.1'	18.2	0.5	3.2	6	15～26	20.3
5月24日	5	33° 30.81'	134° 50.72'	21.1	0.8	6.7	73	30～76	46.0
	6	33° 35.26'	134° 55.81'	23.1	0.7	5.1	1	44	

* 3個の流れ藻の合計重量